

あんず

K y o r i n M a g a z i n e A n z u 2025

vol. 13



Contents

- 02 …… 理事長・学長 2025年度ご挨拶
- 03 …… キャンパスカレンダー
- 04 …… 令和6年度 事業報告
- 05 …… 令和6年度 決算報告
- 06 …… 杏林学園第6次中期5ヵ年計画
- 07 …… 令和7年度 事業計画
- 09 …… 令和7年度 学園予算
- 10 …… 人事情報
- 11 …… 学生情報
- 12 …… 学生表彰・ご寄付
- 13 …… 大学
- 15 …… 付属病院・付属杉並病院

2025年度 ご挨拶



理事長
松田 剛明

昨年度、新型コロナウイルスの影響が徐々に落ち着く一方で、医療需要の回復が十分とは言えず、大学病院を含む医療機関にとって依然として厳しい状況が続いております。これに対応すべく、本学医学部付属病院では外来から入院まで患者様をサポートするPFMシステムの活用や病床・外来体制の見直しを進め、より効率的で質の高い医療を目指す改革に取り組んでおります。また、救急科・救急総合診療科を中心に救急車の応受率を向上させる取り組みを進めています。

杉並病院では、医療の質と運営の安定化を両立させるため、関係部署との連携を深めながら課題解決に努めております。救急応受率の向上や人間ドックにおけるインバウンド需要の取り込みにも力を入れる予定です。

大学部門においては、急速な少子化により競争が一層激化する中、教育・研究の国際化を推進する体制を整えつつあります。各学部でのグローバルな連携を強化し、真に社会に貢献する人材育成に努めてまいります。

本年度も本学が持つ多様な力を結集し、学園全体の発展に尽くしてまいります。引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。



学長
渡邊 卓

本学では、今年度より第6次中期5ヵ年計画がスタート致しました。「多彩な人材が集う人間性にあふれた大学を目指して」とのビジョンのもと、教育、学生受入、学生支援、研究、社会連携、医療、経営の7つの視点から、今後5年間に達成を目指すべき目標が設定されております。詳細につきましては、学園ホームページ等にてご確認ください幸いです。

今回の中期計画では、そのビジョンにも示されているように、“人間性”の重視を、基本的な理念としております。現在、ITやAIなど、先進的なデジタル技術の積極的な活用が社会の大きな流れとなっておりますが、そういった中でこそ、本学の活動の中心をなす教育、そしてまた医療における“人間性”の重要性について、今一度、思いを新たに、との意味が込められているものです。今後、各学部並びに研究科、付属病院、事務部門等、各部門において、このビジョンの達成に向けた具体的な方策を実行に移してゆくこととなります。本中期計画の着実な実施により、今後、より一層、人間性にあふれた教育と医療が本学において実現されますよう、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



キャンパスカレンダー 2024年10月~2025年3月



三鷹キャンパスの杏でつくったジャム。179個がすべて完売

10月 杏林祭
10月25日、26日井の頭キャンパスで「杏林祭」を開催。昨年より1,300人多い約5,000人が来場

第10回 杏林大学医学部白衣式

11月 白衣式
第10回医学部白衣式を松田進勇記念アリーナで挙。臨床実習に臨む4年生104人に白衣が授与された

外国語学部生が杉並病院訪問

「メディカルツーリズム」を学ぶ観光文化交流化学科の学生が医学部付属杉並病院を見学

BOCCIA JAPAN CUP 2025

杏林大学ポッチャ部の活躍
「BOCCIA JAPAN CUP 2025 supported by かんぼ生命 東日本大学選手権」で杏林大学ポッチャ部が優勝

12月 フットサル女子優勝

東日本医療系学部フットサル秋大会で女子優勝。7月の大会で敗れた相手と対戦してリベンジ優勝。男子もベスト8入りを果たした

1月 入試

松田進勇記念アリーナで行われた入学試験。志願者数は4学部合計で9,938人

2月 武蔵野市いきいきサロン事業

避難所で多世代が支え合う復興支援健康プログラム。看護学科の学生も参加した

3月 卒業式

3月16日、1,353名が社会に巣立つ。卒業生代表が個々の自由な思いを語るスピーチも行った



令和6年度 事業報告

I. 学校法人の概要 (抜粋)

区 分		令和6年度		
設置する学部等		大学院：3研究科15専攻 学部：4学部16学科		
学生数(収容定員)(人)		令和5年度	令和6年度	令和7年度参考
5/1 現在		5,967 (5,827)	5,955 (5,916)	6,072 (6,010)
教職員数	本務教員(兼務教員)	702 (311)	768 (297)	775 (263)
	本務職員(その他職員)	2,551 (59)	3,121 (118)	3,139 (111)
	合計	3,253 (370)	3,889 (415)	3,914 (374)
令和7年4月入学者数(人)		入学者数(入学定員)：医学部118(118) 保健学部827(786) 総合政策学部251(230) 外国語学部263(252)		

II. 事業の概要《主要実施事業抜粋》

区 分	令和6年度 事業報告	
医学部	医学教育分野別評価にかかわる改善事項の対応	・受審過程で明らかとなった課題への取り組みは、医学部教育改善委員会を中心に対応を進め、その成果の概要を日本医学教育評価機構に提出する年次報告書にて報告している。報告書は教授会等で提示され、教員への広報・周知を通じて、継続的な改善の実践に活用され、医学部教育評価委員会にて学内委員及び外部委員(学外有識者)から年次報告書に基づく改善事項についての評価を受けた。
保健学部	入学志願者の意識変化に伴う各学科・専攻の入試改革	・少子化の影響に加えコロナ禍による学生の受験行動の変化もあり、保健・医療系学部の受験者数は全国的に減少傾向にあり、教員が積極的に広報を展開することを計画。近隣で優秀な学生を輩出する高校と高大連携に関する協定を相互に取り交わし、学生確保に力を入れ、協定を交わした高校から19名が入学した。
総合政策学部	学科・コース制の検討	・社会科学の多様な分野を学び、学際的な思考を身に付け、課題解決に実践的に当たる人材を養成するという教育目標を維持したうえで、受験生に分かりやすい「総合政策学科」を「法律政治学科」、「企業経営学科」を「経済経営学科」に学科名を変更した。学生1人ひとりに対して個別に指導することを徹底するとともに、標準的に履修モデルを提示することも必要であると考えている。
外国語学部	入学者の質向上と収容定員管理	・年内入試での入学者確保に向け、指定校・協定校を拡大し、協定校との連携を強化した。協定校を対象としたブリッジ授業を3日間に延長した。また、オープンキャンパスのプログラム内容を工夫する等実施し、学部入学者定員の1.04倍を確保した。
データサイエンス教育研究センター	新たな講義の開講と既存講義の充実	・受講生からのフィードバックを受けて既存講義内容の充実を図った。さらに、保健学部臨床検査技術学科において、新たに医療統計学、医用画像AI解析という二つのデータサイエンス関連講義を開講、総合政策学部において、情報社会論という講義にオンデマンド教材の提供を行った。
研究推進センター	各種補助金・助成金等の獲得のための支援	・各種補助金・助成金等の採択数向上を目指して過年度の状況を検証・分析のうえ、必要な情報提供、コーディネートをきめ細かく行い、研究資金獲得セミナーを開催し、約100名の研究者が参加した。研究資金申請未経験の特に若手研究者を対象に、研究計画の策定、研究計画書の作成に関して書き方支援を行い、外部講師を招いて研究計画調書に関する勉強会を開催した。
キャリアサポートセンター	・「より早く」学生の意識とスキルの向上 ・「より深く」教員や企業との連携 ・「よりきめ細かく」学生への支援と指導 就職率(保健学部、総合政策学部、外国語学部)98.3% 前年度98.7%	・令和6年度卒業からの「採用直結型インターンシップ」解禁により、従来にも増して企業の早期選考が顕著となり学生にとっての就職活動も更なる前倒しが顕著となっている中、就職活動支援イベントの実施時期を早めることで就活生の「より早く」の意識を高めてきた。令和6年度3学部(保・総・外)の卒業生の最終就職率は98.3%で、直近20年で最高であった前年度より若干低いものの高い水準を維持している。
学生支援センター	退学防止対策の推進	・退学防止プロジェクトチームが井の頭キャンパス事務部各部署を横断的に編成され、様々な対策に取り組んでいる。2024年度は「事務職員と話そう会」を開催し、学生との接点を深めるイベントを検討すると共に各学部と連携し、体制の確立に向けて取り組みを進める。
入学センター	入試広報の推進	・医学部を除く3学部で直近3年間で毎年20名以上の志願者がいる高校を選定し、引続き学力の高い志願者の獲得に向けて高校訪問を継続した。特に新しく指定校に選定した高校や協定校には、教員に対し入試の内容、変更点に止まらず本学の受験につながる職業を丁寧説明し、理解を促した。
高大連携	高大連携協定締結校との入試改革の展開	・新たに6校と高大連携協定を締結し、学部ごとに高大連携に関する覚書を交わした。これにより、総合型選抜・学校推薦型選抜における協定校制(型)入試の対象は、保健学部4校、総合政策学部と外国語学部は13校に拡充。令和7年度入試における協定校からの総出願数は291件に及んだ。
付属病院	・病床の効率的運用のためのPFM体制の整備 ・手術室の効率的運用による手術件数の増加 ・医師の働き方改革に関する取り組みの継続 ・分院(杉並病院)との連携強化の推進 外来患者数 588,471名 前年度比 1.9%減 入院患者数 298,276名 前年度比 0.4%減 手術件数 13,556件 前年度比 1.9%増 平均病床稼働率 77.5% 前年度比 ±0%	・WGが主導して各部署の努力により、適切にかつ積極的に加算算定を進めた。 ・PFMプロジェクトチームで検討を進め、一部診療科で開始しつつ、令和7年度からの施設改築、病床管理等運用方針を検討・決定を行った。 ・各科手術枠を調整して手術室が効率的に運用できるように進め、手術室管理システム等からのデータ解析を進めた。 ・従来から導入していた医師の勤怠管理システムを、勤務間インターバルや時間外労働上限等に対応できるシステムに更新して適切な勤怠管理ができるようにした。長時間時間外労働の医師に対しては面談を行った。 ・杉並病院に定期的あるいは随時、派遣して診療支援を行った。
杉並病院	・大学病院に相応しい質の高い医療の提供 ・断らない医療の実践 ・手術件数の増加 ・効率的な病床運用による病床稼働率の向上 外来患者数 162,880名 入院患者数 89,500名 手術件数 3,095件 平均病床稼働率 72.1% ※文中の前年比は桜成病院の数値による	・眼科の緑内障手術、中野区・杉並区で唯一の小児病棟のある小児科での医療の提供、整形外科での難易度の高い手術の実施、外来化学療法室の活用や各種専門外来の開設など、大学病院に相応しい質の高い医療を提供した。 ・本院の医師派遣により、救急車の受入件数は前年比587件増の4,578件となった。内科系、外科系それぞれで緊急入院に対するバックアップ体制を見直し、応需率は53.6%前年より4.2%上昇。 ・手術件数は、全身麻酔による手術が前年比118件増の1,751件、局所麻酔による手術が前年比617件増の1,344件。これには、眼科及び形成外科の手術件数の増加が大きく貢献している。 ・8階病棟の病床運用変更及び10階緩和ケア病棟の一般病棟への変更、各病棟の診療科別優先入院先の検討など、効率的な運用を図るための変更を行い、年間の平均病床稼働率は72.1%と前年比3.1%増の結果となった。

事業計画の詳細は、大学ホームページ「経営・財務情報」に掲載しています。



令和6年度 決算報告

■ 資金収支計算書の概要

総資金収入は796.21億円、総資金支出は752.90億円の規模である。令和6年度の前年度繰越支払資金は55.35億円。また、令和6年度決算の翌年度繰越支払資金は、44.48億円となり、10.87億円の資金が減少した。

収入の部

科 目	令和6年度予算	令和6年度決算	差 異
学生生徒等納付金収入	118.39	117.80	0.59
手数料収入	4.67	3.99	0.68
寄付金収入	4.69	2.83	1.86
補助金収入	24.28	26.20	△ 1.92
資産売却収入	0.00	0.00	0.00
付随事業・収益事業収入	6.26	4.81	1.45
医療収入	525.81	515.55	10.26
受取利息・配当金収入	0.19	0.24	△ 0.05
雑収入	4.43	5.75	△ 1.32
借入金等収入	0.00	0.00	0.00
前受金収入	20.24	20.57	△ 0.33
その他の収入	84.80	98.43	△ 13.63
小 計	793.80	796.21	△ 2.41
資金収入調整勘定	△100.68	△122.35	21.67
前年度繰越支払資金	77.64	55.35	22.29
収入の部合計	770.76	729.21	41.55

支出の部

科 目	令和6年度予算	令和6年度決算	差 異
人件費支出	288.69	287.63	1.06
教育研究経費支出	36.55	34.10	2.45
医療経費支出	265.73	271.56	△ 5.83
管理経費支出	34.14	39.37	△ 5.23
借入金等利息支出	1.12	1.11	0.01
借入金等返済支出	9.72	9.72	0.00
施設関係支出	28.32	25.11	3.21
設備関係支出	20.14	20.68	△ 0.54
資産運用支出	11.02	0.37	10.65
その他の支出	58.03	63.26	△ 5.23
小 計	753.50	752.90	0.60
資金支出調整勘定	△ 62.82	△ 68.23	5.41
翌年度繰越支払資金	80.09	44.48	35.61
支出の部合計	770.76	729.21	41.55

※百万円未満を切り捨てており、合計額においては差異を生じる場合がある。

■ 事業活動収支計算書の概要

事業活動収入計は722.54億円、事業活動支出計は701.81億円である。その結果、基本金組入前当年度収支差額は20.73億円の収入超過となった。基本金を組み入れた後の当年度収支差額は△59.04億円。令和6年度の前年度繰越収支差額は△1,030.49億円。翌年度繰越収支差額は△1,079.47億円となった。

		科 目	令和6年度予算	令和6年度決算	差 異	
教育活動収支	事業収入の部	学生生徒等納付金	118.39	117.80	0.59	
		手数料	4.67	3.99	0.68	
		寄付金	4.15	3.23	0.92	
		経常費等補助金	23.07	25.33	△ 2.26	
		付随事業収入	6.26	4.81	1.45	
		医療収入	525.81	515.55	10.26	
		雑収入	4.32	5.45	△ 1.13	
		ア) 教育活動収入計	686.69	676.19	10.50	
		事業支出の部	人件費	291.72	292.30	△ 0.58
			教育研究経費	54.84	52.00	2.84
	医療経費		299.43	305.52	△ 6.09	
	管理経費		39.43	44.88	△ 5.45	
	徴収不能額等	0.01	0.07	△ 0.06		
	イ) 教育活動支出計	685.45	694.79	△ 9.34		
A) 教育活動収支差額	1.24	△ 18.60	19.84			
教育活動外収支	事業収入の部	受取利息・配当金	0.19	0.24	△ 0.05	
	その他の教育活動外収入	0.00	0.00	0.00		
	ウ) 教育活動外収入計	0.19	0.24	△ 0.05		
事業支出の部	借入金等利息	1.12	1.11	0.01		
その他の教育活動外支出	0.00	0.00	0.00			
エ) 教育活動外支出計	1.12	1.11	0.01			
B) 教育活動外収支差額	△ 0.93	△ 0.87	△ 0.06			
経常収支差額(A+B)	0.31	△ 19.47	19.78			
特別収支	事業活動の部	資産売却差額	0.00	0.00	0.00	
	その他の特別収入	2.82	46.09	△ 43.27		
	オ) 特別収入計	2.82	46.09	△ 43.27		
	事業活動の部	資産処分差額	0.59	5.21	△ 4.62	
	その他の特別支出	0.02	0.67	△ 0.65		
	カ) 特別支出計	0.62	5.89	△ 5.27		
C) 特別収支差額	2.20	40.20	△ 38.00			
基本金組入前当年度収支差額(A+B+C)	2.51	20.73				
基本金組入額	△ 47.59	△ 79.77				
当年度収支差額	△ 45.08	△ 59.04				
前年度繰越収支差額	△ 973.21	△1,030.49				
基本金取崩額	0.00	10.05				
翌年度繰越収支差額	△1,018.29	△1,079.47				
事業活動収入計(ア+ウ+オ)	689.70	722.54				
事業活動支出計(イ+エ+カ+予備費)	687.19	701.81				
事業活動収支差額(A+B+C)	2.51	20.73				

		令和6年度予算	令和6年度決算	差 異
減価償却額合計(教育活動収支に含む)	57.30	58.09	△ 0.79	
内訳				
教育研究経費	18.29	17.74	0.55	
医療経費	33.69	34.19	△ 0.50	
管理経費	5.31	6.16	△ 0.85	

※百万円未満を切り捨てており、合計額においては差異を生じる場合がある。

		令和6年度予算	令和6年度決算	差 異
減価償却額合計(教育活動収支に含む)	57.30	58.09	△ 0.79	
内訳				
教育研究経費	18.29	17.74	0.55	
医療経費	33.69	34.19	△ 0.50	
管理経費	5.31	6.16	△ 0.85	

事業計画の詳細は、大学ホームページ「経営・財務情報」に掲載しています。



杏林学園第6次中期5ヵ年計画 (令和7年度～11年度)

全文はこちらから



ビジョン 「多彩な人材が集う人間性にあふれた大学を目指して」

重点取組

1 教育

- ① 学生の多様性を尊重し、個々の個性を最大限に引き出すことで、目まぐるしく変化する社会で活躍できる人材を育成する。
- ② アセスメント・プランに基づき教育効果を測定し、その結果を教育活動の改善に反映させることで、自律的かつ継続的な教育の質保証を実施する。
- ③ 医療保健学系と人文社会科学系の特色を活かした領域横断的なプログラムの提供により、杏林ならではのユニークな見識を備えた人材を育てる。

2 学生受入

- ① 多様な入試制度を効果的に活用し、高い潜在力を持つ個性豊かな学生を受け入れる。
- ② 円滑かつ信頼性の高い入学者選抜を実施する。

3 学生支援

- ① 教職員との接触機会を最大化することで、学生へ学修・生活面できめ細かい指導の充実を図る。
- ② 学生一人ひとりの適性に応じたキャリアの追求を強力に後押しする体制を構築する。

4 研究

- ① 社会に貢献することのできる先端的な研究シーズの創出を支援する。
- ② 若手研究者育成のための支援体制を整備する。
- ③ 学部の枠を越えた学際的な研究環境を構築する。

5 社会連携

- ① 医療の提供を含む大学の資源を、地域活性化に結びつける体制を強化する。
- ② 共通の大方針に基づいた自治体との協力関係を構築し、地域連携の一層の深化を図る。

6 医療

- ① 地域社会に根ざした、あたたかく良質な医療を継続して提供できる体制を整備する。
- ② 先進的な技術の導入を進め、医療の革新と質の向上を図る。

7 経営

- ① 人への優しさ、温かさに基づく医療・教育を通じて、杏林のブランドイメージの確立を目指す。
- ② ダイバーシティを尊重しつつ、優秀な人材の確保に努めるとともに人材の育成に向けた戦略を推進する。
- ③ 継続的な事業活動を支える堅実な財務基盤を確立する。

令和7年度 事業計画 (重点事業要約)

重点事業・項目	具体的施策
1 教育	
<医学部>	・継続的な教育の質保証の実現性に向けて、既存のPDCAサイクルを担う実施部門の活動が3ポリシーに基づいて実施されているかの評価指標を策定する。
<保健学部> ・学部志願者を確保するための将来構想の提案	・近年の学部志願者数の増減を分析し、特にそれが減少傾向にある学科・専攻においては、その理由を探り、学科・専攻の構成、名称、また募集定員数の妥当性を検討する。
<総合政策学部>	・学生のアセスメントプログラム「PROGテスト」(社会で求められる汎用的な能力・態度・志向のこと)を在学中、2回受験することによって、その成長率を確認する。
<外国語学部>	・教育評価の全体設計と数値目標を決定し改善に取り組む。 ・新カリキュラムを視野に入れた評価項目を見直す。
<医学研究科> ・大学院生確保を目指した教育・研究支援体制整備のための取り組み	・専攻統合後の研究指導体制の検討を継続し、基礎系・臨床系教室が協働して大学院生の指導を行う枠組みの確立を推進する。
<保健学研究科> ・大学院教育の質の向上	・アセスメント・プランに基づいた教育効果の測定を継続し、得られた教育効果に関する結果を、実際の教育・研究活動に反映させる上で障壁となっている点を抽出する。
<国際協力研究科>	・新設置の日本語ライティングセンターを活用し、日本語を母語としない学生を対象とした日本語学習支援を重点的に行う。
<データサイエンス教育研究センター> ・MDASH リテラシーレベルの認定継続	・数理・データサイエンス・AI教育の全学的な取り組みを続け、MDASHリテラシーレベルの認定を継続する。
<国際交流センター> ・学生の海外留学・研修の促進	・交換留学など互恵関係の構築が可能な海外大学を開拓し協定を締結する。既存協定校に交渉し交換留学枠を拡大する。留学報告システムとルーブリックを活用し留学効果の測定を行う。
<地域連携センター> ・地域志向教育・社会貢献活動を通じた学内連携の促進	・「地域活動支援事業」を通じた支援を積極的に行い、「地域総合研究所フォーラム」や「公開講座」を開催し、参加者が満足できることを目指す。
<男女共同参画推進室> ・多様性の尊重	・多様性を尊重し、男女共同参画の推進に貢献できる人材を育成する。継続して実施してきた「多様性について考える」セミナーを開催する。
<総合情報センター> ・ネットワーク・システム・機器等の更新	・安定稼働の継続を目的に三鷹・井の頭キャンパスのネットワーク・機器等の更新を推進する。
2 学生受入	
<医学部>	・入試実施前や入試実施後の総括評価を行う組織体制の見直しを行い、学内外からの信頼性及び透明性のある入学者選抜を実施するべく、体制の見直し及び整備を行う。
<保健学部> ・高大接続の推進と優秀な学生確保	・協定校との高大接続を更に推し進め、協定校から優秀な学生の確保を行う。早期に協定校の3年生へ学部及び協定校入試の説明会を行い、夏から秋にかけては1、2年生に対し学部説明会を行う。
<総合政策学部>	・入試区分(一般選抜、大学入試共通テスト利用選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜)ごとに異なるタイプの実験生を確保する。
<外国語学部>	・受験者の動向変化に合わせ、選抜制度や定員の割り振りなどを継続的に検討する。年内入学者の目標数を設定し、達成するための諸活動を行う。
<保健学研究科> ・社会人特別選抜や長期履修制度の広報活動強化	・「多様な人材に門戸が開かれていることを周知する」という観点から大学院ホームページ、大学院紹介、入学説明会の内容を点検する。
<国際協力研究科>	・現在の入試(ペーパーテスト)の見直しを検討する。
<入学センター> ・多面的・総合的入学者選抜による定員管理 ・信頼性の高い入学者選抜の実施	・全学部において一般選抜試験を2月1日以降に実施し、各学部・学科のアドミッションポリシーを見直し、多面的・総合的入学者選抜を行う。 ・出題・合否判定ミス等の入試ミスを防止し、入学者選抜の円滑な実施に万全を期す。信頼性の高い入学者選抜実施のため、多面的・総合的な評価・判定方法を導入する。
<国際交流センター> ・海外協定校からの留学生の受入強化	・留学生増加のため海外協定校に対して広報活動を行う。入試の対象となる海外協定校と協定書の整備を進める。大学院進学促進のため派遣・交換留学生と転入学生に対し案内と支援を行う。
<高大接続推進室> ・ラウンドテーブル定期開催と連携協定締結校との関係強化	・高大接続ラウンドテーブルを年2回定期開催し、教育現場の現状及び発展的な高大接続の在り方について意見交換及び情報共有を行う。高等学校教員向けに大学の魅力を継続的に発信し、連携協定締結校との関係を維持・強化していく。
3 学生支援	
<医学部>	・「学年・世代を超えた上下の結びつきを作る」とともに、「誰一人として孤立させない環境」を目指し体制を構築した学生による学生のためのコミュニティシステム(KyorinSCS)について、教員及び学生からの評価を元に見直しを図る。
<保健学部> ・退学防止策	・学生に対して教員側より勉強・生活面での声掛けを行い、学生にきめ細やかな指導を行う対策を取ることで退学者数を減少させる。
<総合政策学部> ・教職員連携による退学者防止対策会議での検討	・各部署の教職員で構成する退学者防止対策会議での定期的な議論の場を継続し、効果的な対応策を検討するとともに、学部教員に対する情報共有を進め、学生との面談や指導等に役立てる。
<外国語学部>	・学生生活に関する包括的な学生アンケートを実施し、その結果を分析し、よりきめ細かい指導・支援のあり方を検討する。
<国際協力研究科>	・生活面での指導・支援に関する学生アンケートを実施し、よりきめ細かい指導・支援のあり方を検討する。
<学生支援センター> ・障がいのある学生への支援体制の推進	・支援学生への受け入れ態勢及びフォロー体制の更なる充実を図り、学生の満足度向上につなげる。
<キャリアサポートセンター>	・「就職率」だけでなく、学生個々の希望や適性を見極めたキャリア支援の「質」にも拘りをもって臨めるよう、学部との情報共有を前提に早期の支援ニーズの把握に努めていく。

令和7年度 学園予算

重点事業・項目	具体的施策
<国際交流センター> ・留学生の支援体制の構築	・新規開室の日本語ライティングセンターの運営を軌道に乗せる。協定校入学生向けに新設された奨学金の支給体制を学生支援課と協力して整備する。
<男女共同参画推進室> ・教職員及び学生のキャリア形成を支援する	・キャリアを考えるうえでのロールモデルの提示を目的として、ランチョンセミナーを開催する。
<保健センター> ・学生健康診断の充実	・健康診断やワクチン接種等、効率的に進めることで時間的な学生への負担を軽減する。メンタル不調の学生に対して教員や学生支援課と共有を図りサポート体制の強化を行う。
<図書館>	・学生1人ひとりに応じた学習支援サポートをするため、支援内容や範囲を図書館内で確認する。学生には学習支援サービスを行っていることを周知するように努める。
4 研究	
<医学研究科> ・大学院生確保を旨とした教育・研究支援体制整備のための取り組み	・専攻統合後の研究指導体制の検討を継続し、基礎系・臨床系教室が協働して大学院生の指導を行う枠組みの確立を推進する。研究活動の促進と大学院志願者の増加を目的とし、研究交流会を医学部学生にも広く開放することで、早期段階からの研究意欲の向上を図る。
<保健学研究科> ・新時代に適した研究力の向上	・生成系AI等に関する講演会を開催し、AIを研究に用いる際の利点・問題点について理解を深め、利用の際の注意点に関する意識を高める。
<国際協力研究科>	・キャンパス内のFDプログラムに対する大学院生の参加意識向上を図る。
<総合政策学部> ・若手教員研究支援	・個人研究費拠出金を若手教員へ優先的に分配し、研究基盤の拡充を支援する。杏林社会科学学会定例研究会における報告を通じ、ベテラン教員によるピアレビューを実施する。
<外国語学部>	・専任教員全員との対面による面談を実施し、研究意識を高め、研究シーズの収集・整理を行う。
<研究推進センター>	・先端的なシーズにつながるような研究を支援するため、共同研究施設を中心とした研究施設と備品の整備を行う。
<データサイエンス教育研究センター> ・共同研究体制の立ち上げ	・共同研究のフェーズ定義、管理体制の明確化、共同研究窓口の設置等の施策により効率的な運営体制の構築を行う。
<地域連携センター> ・地域総合研究所の活動充実	・視野を広く持って機動的に動くことができる組織として地域総合研究所の活動を推進していく。特に学部間連携による新規性の高い研究活動の立案・実施に注力する。
<男女共同参画推進室> ・研究支援/キャリア形成の支援	・若手及び女性研究者育成のための支援を推進する。研究支援制度の仕組み、有用な活用事例を紹介することにより研究支援員制度を周知する。教職員及び学生のキャリア形成を支援する。
<図書館>	・2025年度採択分の競争的研究費での研究成果からは、論文などの即時オープンアクセス化が求められている。オープンアクセス化を実現するための学内的な整備を行う。
5 社会連携	
<総合政策学部>	・総合政策学部が有する教育資源に基づき、地域活性化に資する取り組みを促進させる。
<学生支援センター> ・部活動の活性化と学園祭の更なる発展	・コロナ禍で低調となった部活動を活性化させるべく、部活動に対する情報提供機会を増やすことを検討する。学園祭については前年を上回る集客数とイベントの拡充を目標とする。
<広報部門> ・杉並病院広報の強化・拡充	・杉並病院のウェブサイトリニューアルの第2期を実施するなど情報発信の体制を強化し、患者や地域住民の認知度向上を図ると同時に病院経営の安定化にも寄与する。
<地域連携センター> ・地自体との連携強化	・地域連携センターは自治体との連携強化により、地域連携、産学連携、学部間・学科間連携を強化していく。
6 医療	
<付属病院> ・地域社会のニーズにあった効率的な病床運営（病床管理の中央管理化）とそれに伴う救急受入体制整備	・PFMの導入：システムによる病床管理と入退院支援体制への効率的資源配置 ・ATTオーバーナイト入院の開始 ・集中治療部門の病床数見直し
<杉並病院> ・高齢者救急の入院では、退院後の受入先と連携を密にし、地域完結型医療に貢献する	・ATT及び時間外診療の当直体制の見直しによる救急患者数の受入増加 ・地域住民向けの健康教育と情報提供を積極的に行うなど予防医療を推進 ・紹介患者数の増加
7 経営	
<広報部門> ・対外発信力の強化	・学園経営に直結する志願者や患者の増加に繋がるよう、大学・病院の多様な情報を積極的に発信する。志願者増加については、入学センターとの連携をさらに進め、より良い入試広報のあり方を追求し実践する。
<付属病院> ・社会情勢を踏まえてデータに基づいた包括的な経営努力を継続するとともに、病床運用の適正化を図る	・病床運用（特に重症系病床）の適正化 ・救急車受入実績 ・加算・指導管理料算定実績
<杉並病院> ・地域に良質な医療の提供体制を継続するために経営の改善を図る	・経営検討委員会を設置し、多方面にわたる経営の改善 ・放射線画像検査枠の拡大と外部依頼件数の増加 ・予防医学センターの健診者数の増加
<経理部門>	以下を重点に置き財務改善を行っていく。 ①経常収支差額10億円を確保（毎月） ②キャッシュフローをコントロールし、運用資産（現預金・特定資産）と有利子負債とのバランスの継続的な改善を行う（net運用資産を毎月10～20億円増加）
<総務部門> ・私立学校法改正への対応	・私学法改正により、理事会と評議員会の機能や役割が変更され、より明確化されることや、理事や評議員の人員構成や任期の時期が変更になることから、滞りなく対応できるように準備を進める。
<人事部門> ・優秀な人材の確保	・優秀な人材を確保するため、就職説明会や見学会、学校訪問など積極的にアプローチし、年間を通じて採用活動を展開する。大学・病院を取り巻く環境の変化や業務高度化に対応すべく、必要な人材を柔軟に補充していくことで、円滑な業務運営を実現していく。

事業計画の詳細は、大学ホームページ「経営・財務情報」に掲載しています。



資金収支予算の概要

総資金収入は844.92億円、総資金支出は787.62億円の規模である。令和6年度（決算見込）からの繰越金は55.16億円。翌年度に繰越す金額は70.38億円となる予算となった。

<資金収支>

科目	令和7年度予算	令和6年度予算
学生生徒等納付金収入	118.06	118.39
手数料収入	4.68	4.67
寄付金収入	4.06	4.69
補助金収入	30.74	24.28
資産売却収入	0.00	0.00
付随事業・収益事業収入	5.93	6.26
医療収入	551.47	525.81
受取利息・配当金収入	0.20	0.19
雑収入	4.98	4.43
借入金等収入	0.00	0.00
前受金収入	19.38	20.24
その他の収入	105.39	84.80
小計	844.92	793.80
資金収入調整勘定	△ 114.31	△ 100.68
前年度繰越支払資金	55.16	77.64
収入の部合計	785.77	770.76

科目	令和7年度予算	令和6年度予算
人件費支出	292.35	288.69
教育研究経費支出	36.58	36.55
医療経費支出	277.36	264.73
管理経費支出	39.84	34.14
借入金等利息支出	0.96	1.12
借入金等返済支出	11.25	9.72
施設関係支出	23.90	28.32
設備関係支出	16.67	20.14
資産運用支出	12.57	11.02
その他の支出	75.09	58.03
予備費	1.00	1.00
小計	787.62	753.50
資金支出調整勘定	△ 72.23	△ 62.82
翌年度繰越支払資金	70.38	80.09
支出の部合計	785.77	770.76

※百万円未満を切り捨て、合計額においては差異を生じる場合がある。

事業活動収支予算の概要

事業活動収入計は720.66億円、事業活動支出計は711.84億円である。その結果基本金組入前当年度収支差額は8.82億円の収入超過予算となった。

令和6年度（決算見込）の前年度繰越収支差額は△1,078.32億円、令和7年度（予算）の当年度収支差額は△33.11億円となり、翌年度繰越収支差額は△1,111.44億円の予算となった。

<事業活動収支>

事業活動	科目	令和7年度予算	令和6年度予算
		学生生徒等納付金	118.06
教育活動収支	手数料	4.68	4.67
	寄付金	4.14	4.15
	経常費等補助金	29.14	23.07
	付随事業収入	5.93	6.26
	医療収入	551.47	525.81
	雑収入	4.83	4.32
	ア) 教育活動収入計	718.28	686.69
	人件費	295.53	291.72
	教育研究経費	55.53	54.84
	医療経費	312.23	298.43
管理経費	46.12	39.43	
徴収不能額等	0.01	0.01	
イ) 教育活動支出計	709.43	684.45	
A) 教育活動収支差額	8.85	2.24	
教育活動外収支	受取利息・配当金	0.20	0.19
	その他の教育活動外収入	0.00	0.00
	ウ) 教育活動外収入計	0.20	0.19
	借入金等利息	0.96	1.12
その他の教育活動外支出	0.00	0.00	
エ) 教育活動外支出計	0.96	1.12	
B) 教育活動外収支差額	△ 0.76	△ 0.93	
経常収支差額 (A+B)	8.08	1.31	
特別収支	資産売却差額	0.00	0.00
	その他の特別収入	2.17	2.82
	オ) 特別収入計	2.17	2.82
	資産処分差額	0.41	0.59
その他の特別支出	0.02	0.02	
カ) 特別支出計	0.43	0.62	
C) 特別収支差額	1.74	2.20	
D) [予備費]	1.00	1.00	
基本金組入前当年度収支差額 (A+B+C-D)	8.82	2.51	
基本金組入額	△ 41.94	△ 47.59	
当年度収支差額	△ 33.11	△ 45.08	
前年度繰越収支差額	△ 1,078.32	△ 973.21	
翌年度繰越収支差額	△ 1,111.44	△ 1,018.29	

事業活動収入計 (ア+ウ+オ)	720.66	689.71
事業活動支出計 (イ+エ+カ+予備費)	711.84	687.19
事業活動収支差額 (A+B+C-D)	8.82	2.51

※百万円未満を切り捨て、合計においては差異を生じる場合がある。

事業計画の詳細は、大学ホームページ「経営・財務情報」に掲載しています。



人事情報

2025年度 杏林学園役員 (2025年6月 現在)

役職	氏名	現職
理事長	松田 剛明	大学教授
理事	松田 博青	大学名誉教授
理事	渡邊 卓	大学長
理事	平形 明人	大学教授・医学部長・医学研究科長
理事	田口 晴彦	大学教授・保健学部長・保健学研究科長
理事	内藤 高雄	大学教授・総合政策学部長
理事	坂本ロビン	大学教授・外国語学部長・国際協力研究科長
理事	近藤 晴彦	大学教授・医学部付属病院長
理事	市村 正一	大学特任教授・医学部付属杉並病院長
理事	今村 知明	公立大学法人奈良県立医科大学教授
理事	鈴木典比古	広島県公立大学法人理事長

役職	氏名	現職
監事	則定 衛	弁護士・元東京高等検察庁検事長・元法務事務次官
監事	石井 道遠	元国税庁長官、元(株)東日本銀行頭取
監事	甲能 直幸	前立正佼成会附属佼成病院総院長、元杏林大学医学部付属病院長

2025年度 就任教授

学部	所属教室/学科	氏名	職位
医学部	循環器内科学	村田 光繁	教授
医学部	血液内科学	荒井 俊也	教授
医学部	脳神経外科学	田中 洋次	教授
医学部	総合医療学	武井 秀史	臨床教授
医学部	放射線医学	須山 淳平	臨床教授
医学部	麻酔科学	関 博志	臨床教授
医学部	麻酔科学	中澤 春政	臨床教授
医学部	泌尿器科学	多武保光宏	臨床教授
医学部	呼吸器・甲状腺外科学	橋本 浩平	臨床教授
医学部	耳鼻咽喉科学	増田 正次	臨床教授
医学部	産科婦人科学	森定 徹	臨床教授
医学部	代謝生化学	菅田 慎一	研究教授
保健学部	臨床検査技術学科	石井さなえ	教授
保健学部	臨床検査技術学科	大河戸光章	教授
保健学部	看護学科	米山 雅子	教授
保健学部	リハビリテーション学科	渡辺 眞澄	教授
総合政策学部		三浦 秀之	教授

2025年度 大学役職者

役職	氏名
学長	渡邊 卓
学部長(医学部)	平形 明人
学部長(保健学部)	田口 晴彦
学部長(総合政策学部)	内藤 高雄
学部長(外国語学部)	坂本ロビン
医学研究科長	平形 明人
保健学研究科長	田口 晴彦
国際協力研究科長	坂本ロビン
医学部付属病院長	近藤 晴彦
医学部付属杉並病院長	市村 正一
付属図書館長	大木 紫
医学分館長	大木 紫
井の頭分館長	渡辺 剛
キャリアサポートセンター長	福長 一義
国際交流センター長	宮首 弘子
入学センター長	稲垣 大輔
学生支援センター長	古本 泰之
データサイエンス教育研究センター長	坪下 幸寛
研究推進センター長	櫻井 裕之
保健センター長	徳永 健吾
総合情報センター長	大森 拓哉
地域連携センター長	石井 博之
高大接続推進室長	八木橋宏勇
男女共同参画推進室	成田 雅美
教務部長(医学部)	柴原 純二
教務部長(保健学部)	望月 秀樹
教務部長(総合政策学部)	進邦 徹夫
教務部長(外国語学部)	岩本 和良
学生部長(医学部)	渡邊 衡一郎
学生部長(保健学部)	橋本 雄幸
学生部長(総合政策学部)	斉藤 崇
学生部長(外国語学部)	古本 泰之
医学研究科 教務担当	大西 宏明
保健学研究科 教務担当	竹田 里江
国際協力研究科 教務担当	岡村 裕

2024年度 定年退任教授

学部	所属教室/学科	氏名
医学部	血液内科学	高山 信之
医学部	麻酔科学	萬 知子
医学部	代謝生化学	後藤田貴也
医学部	皮膚科学	水川 良子
医学部	脳神経外科学	永根 基雄
保健学部	看護学科	伊藤 久美
保健学部	臨床工学科	坂田 好美
総合政策学部		劉 迪

学生情報

在学生数 (2025年4月 現在)

学部	学生数
医学部	712
保健学部	3,153
総合政策学部	997
外国語学部	990
学部合計	5,852
大学院	計
医学研究科	40
保健学研究科	90
国際協力研究科	35
大学院合計	165
総計	6,017

2025年度 入学者数

学部	学生数
医学部	118
保健学部	827
総合政策学部	263*
外国語学部	275*
学部合計	1,483
大学院	学生数
医学研究科	6
保健学研究科	40
国際協力研究科	12
大学院合計	58
総計	1,541

*編・転入生含む

2025年度入試 志願者数

学部	学科	専攻	志願者数	
医学部	医学科		3,256	
	臨床検査技術学科		631	
	健康福祉学科		188	
	看護学科	看護学専攻	1,846	
		看護養護教育学専攻	405	
	臨床工学科		172	
	救急救命学科		178	
	保健学部	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	604
			作業療法学専攻	181
			言語聴覚療法学専攻	62
診療放射線技術学科		713		
臨床心理学科		230		
小計		5,210		
総合政策学部	総合政策学科		500	
	企業経営学科		311	
	小計		811	
外国語学部	英語学科		339	
	中国語学科		83	
	観光交流文化学科		239	
小計		661		
総計			9,938	

2024年度 学位授与者数

学部	人数	累計学位授与数
医学部	130	4,893
保健学部	651	12,340
総合政策学部	235	11,438
外国語学部	265	10,191
学部合計	1,281	38,862
大学院	人数	累計学位授与数
医学研究科	18	1,183
保健学研究科	45	519
国際協力研究科	9	1,162
大学院合計	72	2,864
総計	1,353	45,714*

*総計は看護専門学校生含む

2024年度 国家試験結果

学部	資格	国家試験合格率(新卒)	全国平均
医学部	医師	96.9%	95.0%
保健学部	臨床検査技師	100%	94.0%
保健学部	社会福祉士	66.7%	56.3%*
保健学部	看護師	100%	95.9%
保健学部	保健師	100%	96.4%
保健学部	助産師	100%	99.3%
保健学部	臨床工学技士	95.9%	78.9%*
保健学部	救急救命士	95.7%	94.4%*
保健学部	理学療法士	98.2%	95.2%
保健学部	作業療法士	100%	92.5%
保健学部	診療放射線技師	100%	92.2%
保健学部	公認心理師	80.8%	77.2%

*既卒含めた全国平均

2025年度 就職率 (2025年5月 現在)

学部	学科	就職率
保健学部	臨床検査技術学科	98.9%
	看護学科(看護学専攻)	100%
	看護学科(看護養護教育学専攻)	100%
	臨床工学科	91.3%
	救急救命学科	95.9%
	健康福祉学科	97.8%
	理学療法学科	100%
	作業療法学科	100%
	診療放射線技術学科	97.8%
	臨床心理学科	94.9%
総合政策学部	総合政策学科	97.8%
	企業経営学科	100%
外国語学部	英語学科	99.2%
	中国語学科	92.3%
	観光交流文化学科	100%

学生表彰

◆ 2024年度成績優秀学生

● 医学部 5名 ● 保健学部 32名 ● 総合政策学部 6名 ● 外国語学部 10名

◆ 2024年度特別表彰学生

● 医学部 5名 ● 保健学部 2名 ● 総合政策学部 2名 ● 外国語学部 2名

◆ 2024年度3月卒業 学園長・学長賞 授与者

● 医学部	高畑 大樹	石上 夕稀	佐藤 龍介
● 保健学部	小林 直希	宮本 果歩	白鳥 聖也
● 総合政策学部	高瀬 彩音	根本 琴弓	荒木 大樹
● 外国語学部	中谷 萌	渡邊 優吾	木下 いちか

ご寄付の報告

学生支援のための教育研究募金や医療を充実させるための付属病院へのご寄付等、多くの皆様からご支援を賜りましたことに深く感謝を申し上げます。

ご寄付はそれぞれの使途・目的に沿って有効に活用させていただきます。

■ 2024年度寄付状況(期間:2024年4月1日~2025年3月31日)

寄付の種類	累計件数	累計金額
教育研究募金	30件	24,577,216円
医学部付属病院へのご寄付	56件	4,472,000円
奨学寄付金	158件	191,195,000円
杏林大学リサイクル募金	16件	7,835円
クラウドファンディング	211件	15,916,000円
総計	471件	236,168,051円

●お問い合わせ先 杏林学園募金事務局(経理課内)

〒181-8611東京都三鷹市新川6-20-2
TEL:0120-50-1665(フリーダイヤル)
E-mail:bokin@ks.kyorin-u.ac.jp

杏林学園募金サイト



三鷹市ふるさと納税制度を通じて杏林大学をご支援いただけます

本学は、社会に貢献する人材の育成や、本学の知を活かした社会貢献活動をより一層充実させるため、三鷹市のふるさと納税を活用した「三鷹市大学応援交付金」制度に2024年7月から参画しています。これは三鷹市が、ふるさと納税を通して、地域貢献を行う市内の大学を支援するために行っているものです。

いただいたご寄付のうち、三鷹市から交付された資金は本学の学生に向けた教育環境等の整備や研究社会活動などに活用いたします。広く皆さまからのご支援をお待ちしております。

【寄付の活用事業例】

- ① 三鷹市または市内で活動する地域団体と連携・協働して行うまちづくり活動事業
- ② 市民等の生涯学習・リカレント教育に係る事業
- ③ 学生の教育・生活環境(経済支援を含む)の整備、国際交流の推進に係る事業
- ④ 大学内の施設、設備または環境保全(緑化推進を含む)等の充実のための事業
- ⑤ 教育研究環境の整備(教育研究活動の支援を含む)に係る事業 など

●お問い合わせ先
杏林学園募金事務局
TEL:0120-50-1665



寄付方法等
詳細はこちら

医学部

国際化推進委員会が「国際ポータル」を新設

インターネットの普及やIT・AIの進化によって、距離や時差、さらに言語の壁さえも越えられるグローバル・コミュニティが生まれました。医療や医学教育、医学研究においても、このような環境で新たな課題や機会に対応できるよう、医学部の国際化推進委員会では、新たなツールとして「国際ポータルサイト」を2025年2月に開設しました。各コンテンツへのアクセスを容易にすることで、本学医学部と海外の大学の医学部に在籍する学生や医師、研究者との交流を支援し促進するものです。日本語コンテンツ(一部学内専用)とともに、主に海外からのアクセスに特化した英語コンテンツも用意されています。必要に応じて翻訳ツールなどを活用しながら、どなたでも両コンテンツをご覧いただけます。国際化推進委員会では、このサイトを通じて世界に羽ばたく医療人の育成に貢献していきます。



保健学部

作業療法学専攻が国際的な教育認定を取得

保健学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻は、リハビリテーション教育評価機構と日本作業療法士協会、それに世界作業療法士連盟(WFOT)による2024年度の審査で、リハビリテーション教育に必要な施設基準やカリキュラムを適切に提供・実施できる養成施設であることが認められ、国際的な「作業療法士教育の教育基準」の要件を満たすWFOT認定校として登録されました。WFOTは世界保健機関(WHO)にも認められた国際的な団体で、作業療法士の質の維持・向上を目的に、各国の教育プログラムが基準を満たしているかどうかを審査しています。本専攻がWFOTの認定を受けたことにより、本学の学生は国際的に認められた水準の作業療法士教育を受けていると評価されます。このため国家資格取得後は海外でも作業療法士として活躍できるようになり、卒業生の可能性が大きく広がります。



総合政策学部

学科を改組、法律政治学科と経済経営学科に

総合政策学部は、2026度から現在の総合政策学科・企業経営学科が、それぞれ法律政治学科・経済経営学科に名称が変わり、コースは廃止されます。前者は主に法律、政治、国際関係、福祉政策を専門に学び、後者は主に経済、経営、会計を専門に学びます。新しい学科名は2026年4月の新入生から適用され、それ以前の入学者は入学時の学科名となります。学科名変更の主な理由は、受験生にとって専攻分野をわかりやすくするためですが、学部が目指す教育と人材育成の基本姿勢は変わりません。つまり、社会科学の上記7つの領域を横断的に学び、多角的に物事を考え、社会課題の解決能力を身に付けるということです。グローバル化社会に対応するGlobal Career Program(GCP)、データを用いた解決力を養うData Design Program(DDP)、地域留学を通じた実践学習Community Based Learning(CBL)の3つのプログラムも継続します。



外国語学部

高雄市のフィールド・スタディで中国語と台湾文化を学ぶ

中国語学科と観光交流文化学科の学生10名が、2025年3月2日から9日までの8日間、フィールド・スタディとして、台湾の高雄市にある国立高雄餐旅大学での研修に参加しました。国立高雄餐旅大学は1995年に創設された台湾初のホスピタリティ専門の国立大学で、研修プログラムは本学との連携協定に基づいて初めて企画されました。特に学びを即実践に移すことが重視され、学生たちは飲食店に電話をかけて飲み物を注文したり、現地の大学生に突撃質問するミッションゲームを行うなど、中国語の会話を向上させる効果的な授業が目白押しでした。さらに、烏龍茶の製法に関する講義と飲み比べをしたり、名所旧跡を訪ねて観光地の課題を学んだりもしました。期間中は現地の学生スタッフが学習・生活両面で親身にサポートしてくれ、一緒に買い物や食事に行ったりスポーツを楽しんだりと交流を深めました。



国際交流

キャンパスの国際化進む

中国の協定校からの3年次転入生を受け入れる「杏林大学学部生海外留学プログラム」が、2025年4月からスタートしました。これは本学の外国語学部と総合政策学部の文系2学部の学びを融合した「6つの選べるコース」を中国からの留学生に提供するもので、留学生は3年次(4月または9月)に入学して2年間本学で学ぶことで、中国の母校と杏林大学の2つの学位を取得できます。本学の学生にとっても、互いの国の文化や考え方の違いを知り、国際交流を深める貴重な機会となっています。現在は、天津外国語大学、大連外国語大学、北京第二外国語学院から8名の留学生が在籍しており、秋にはさらに11名の留学生が加わる予定です。

医学部付属病院

植込型補助人工心臓実施施設に認定

当院は2025年4月に補助人工心臓治療関連学会協議会より「植込型補助人工心臓実施施設」として認定を受けました。この認定は重い心不全で薬物療法などの治療ができなくなった患者さんにとって、唯一残された選択肢となる植込型補助人工心臓の装着手術を実施できる施設であることを示しています。認定を受けている医療機関は、全国で40施設にも満たない状況です。当院では2021年より人工心臓を装着している患者さんの管理を行ってきました。その間、手術実施に向けた体制整備、各種マニュアルの策定、診療体制の充実などに取り組んだ結果、東京23区外では初の認定施設となりました。西東京で唯一の大学病院本院であり、特定機能病院でもある当院では、今後も高度で幅広い循環器疾患の治療を提供してまいります。

新型MRIを2台導入、より高精度・快適な検査が可能に

外来棟地下1階放射線部に新型MRI装置が2台導入されました。2024年8月下旬から運用が始まったフィリップス社製「Ingenia 1.5T Circular Edition」は、磁力1.5テスラの特長を活かし、高身長の方の全脊椎といった広範囲部位の撮影や広範囲の腹水症例がある方、また体内に金属性の診療材料を挿入されている方など、従来では画質の担保が難しかった症例でも高い解像度と視認性をもって撮像することができます。

12月中旬から運用されているキャノン社製「Vantage Galan 3T / Supreme Edition」は、心臓部にあたるマグネットや傾斜磁場システムを国産のものとした最新の3T MRI装置です。磁場の均一性が向上したことで、従来と比べて広範囲の部位を歪みのない画質で撮像することができます。さらに、AI技術を用いたノイズ低減と超解像技術を併用することで、検査時間の短縮と高解像度の画像を取得することが可能となりました。例えば、数分かかっていた全脳のT2強調画像が、救急診療時にはわずか5秒で撮像することができます。

また、どちらの検査室も天井には開放感のある風景画が描かれ、検査時にはBGMが流れることで、MRI検査特有の騒音や閉塞感を和らげることができ、患者さんにより快適に検査を受けていただけるような工夫をしています。



医学部付属杉並病院

東京都の「紹介受診重点医療機関」に認定

当院は2025年4月、東京都の「紹介受診重点医療機関」となりました。これはかかりつけ医などからの紹介状を持って受診いただくことに重点をおいた医療機関のことです。手術・処置や化学療法等を必要とする外来、放射線治療等の高額な医療機器・設備を必要とする外来などを行っています。原則として紹介状のありなしにかかわらず受診は可能ですが、紹介状を持参されずに来院された場合は、一部負担金(3割負担等)とは別に「特別の料金(初診に係る選定療養費)」が必要になります。まずは、地域のかかりつけ医療機関を受診いただき、受診結果を踏まえた紹介状を持参いただくことで、診察や検査がスムーズになります。先進的でより高度な医療を提供する大学付属病院として、いっそう地域の皆様に信頼される病院を目指していきます。

4月に病院の公式ホームページを全面リニューアルしました

強化・準強化指定クラブ 春季大会の成績

硬式野球部(強化指定クラブ)

東京新大学野球連盟1部春季リーグ

- 大会日程: 2025年4月4日~5月19日
- 会場: 大田スタジアム、岩槻川通公園野球場、県営大宮公園野球場、TOKIWAスタジアム龍ヶ崎、飯能市民球場ほか
- 1部リーグ6大学で第4位

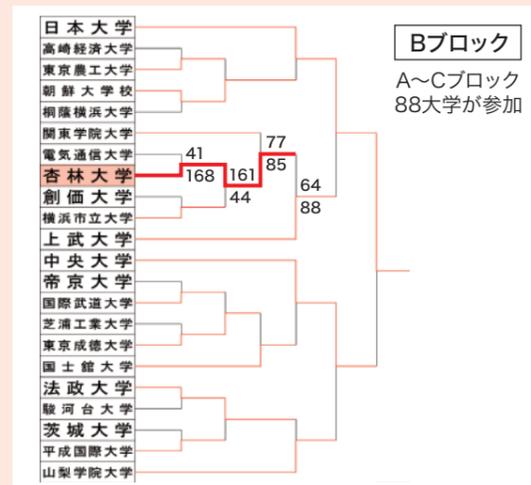
1位 創価大学	9勝3敗	勝率:0.750
2位 共栄大学	8勝3敗	勝率:0.727
3位 東京国際大学	6勝6敗	勝率:0.500
4位 杏林大学	6勝8敗	勝率:0.429
5位 流通経済大学	4勝8敗	勝率:0.333
6位 駿河台大学	3勝8敗	勝率:0.273



男子バスケットボール部(準強化指定クラブ)

第74回関東大学選手権大会

- 大会日程: 2025年4月12日~5月4日
- 会場: 杏林大学八王子キャンパス、大田区総合体育館、国立代々木競技場 第二体育館ほか
- A~Cブロック88大学で
Bブロックの杏林大は4回戦まで進んでベスト32





あんず Anzu 2025

学校法人 杏林学園

2025年7月発行

発行 学校法人 杏林学園

企画・編集 広報室

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

TEL.0422-44-0611

@kyorin_university



キャンパスの日常や
イベントなどを
配信しています。
ぜひご覧ください!



(表紙の写真は三鷹キャンパス医学部講義棟Aから見下ろすオブジェ"SKY(気流)"常松大純 作)